

● 目次

- 2 ひととヒト
 3 平成20年度決算のあらまし
 6 秋の叙勲・褒章、危険業務従事者叙勲
 8 と〜くあばうと／市長談話室／
 ななこちゃんのエコ生活
 9 市民相談／ケーブルテレビ番組情報
 10 まちの顔
 12 **【ミニ特集】**「マクベス」がくれたもの
 14 情報ランド（お知らせ）
 20 伸ばせ！七尾っ子プロジェクト／
 児童館へ行こう
 21 イベント情報
 22 休日医療情報／不用品活用銀行
 23 みんなの本棚
 24 七尾市民劇団N定期公演など／
 わが家のアイドル

今月の表紙

11月15日に千秋楽を迎えた「マクベス」ロングラン公演。会場を埋め尽くした観客や関係者から舞台上の役者やエキストラへと、惜しみない拍手が送られた。

舞台上で安堵の表情を浮かべる仲代さんや若村さんたちの姿から、今回の公演にかけた意気込みが伝わってきた。

「マクベス」は終わった。しかし、七尾のまちづくりは終わることはない。ここだけにしかない“財産”をこれからどう生かすのか。全国から寄せられた熱い視線がこれからも能登へ注がれるかは、私たちのこれからにかかっている。

（※12～13ページに関連記事）

ひと

ヒト

「組子」を操る匠の技



木製建具製造工 遠藤

外数さん(48歳)
田鶴浜町『親子2代で
現代の名工』に

「周りの人たちが自分の仕事を理解してくれたからこそ、ここまでたどり着いた」と、これまで支えてくれた家族や同僚への感謝の気持ちが込み上げる。

厚さわずか1ミリの木片を組み合わせた「組子」を自在に操り、引き戸に多彩な模様を描き出す。建具では特に難しいとされる曲線を組み合わせた立体的な作品は見る者を魅了する。田鶴浜建具の伝統が息づく確かな匠の技。

この道に足を踏み入れたのは高校卒業後のこと。一時は別の道に進む決心をしていた。その心を動かさせたのは、平成9年に同じく「現代の名工」に選ばれた、父の潔さん(76歳)だった。

外数さんはこれまでも全国建具展示会で労働大臣賞や内閣総理大臣賞を何度も受賞した経験を持つ。「す

ばらしい技術と心を持った父や先輩の職人さんに厳しく鍛えられたからこそ。自分だけでは決してここまでできなかった」と振り返る。

「小さい頃から作業場が遊び場で、好きなものをたくさん作った。そんな環境が自分では楽しかった。勝手に道具を触ってよく叱られました。がね」と笑みを浮かべる。

「もつと技術を磨いて挑戦しろ」ということ。『名工』の名に恥じぬよう、これからもがんばりたい」と意欲を燃やす。

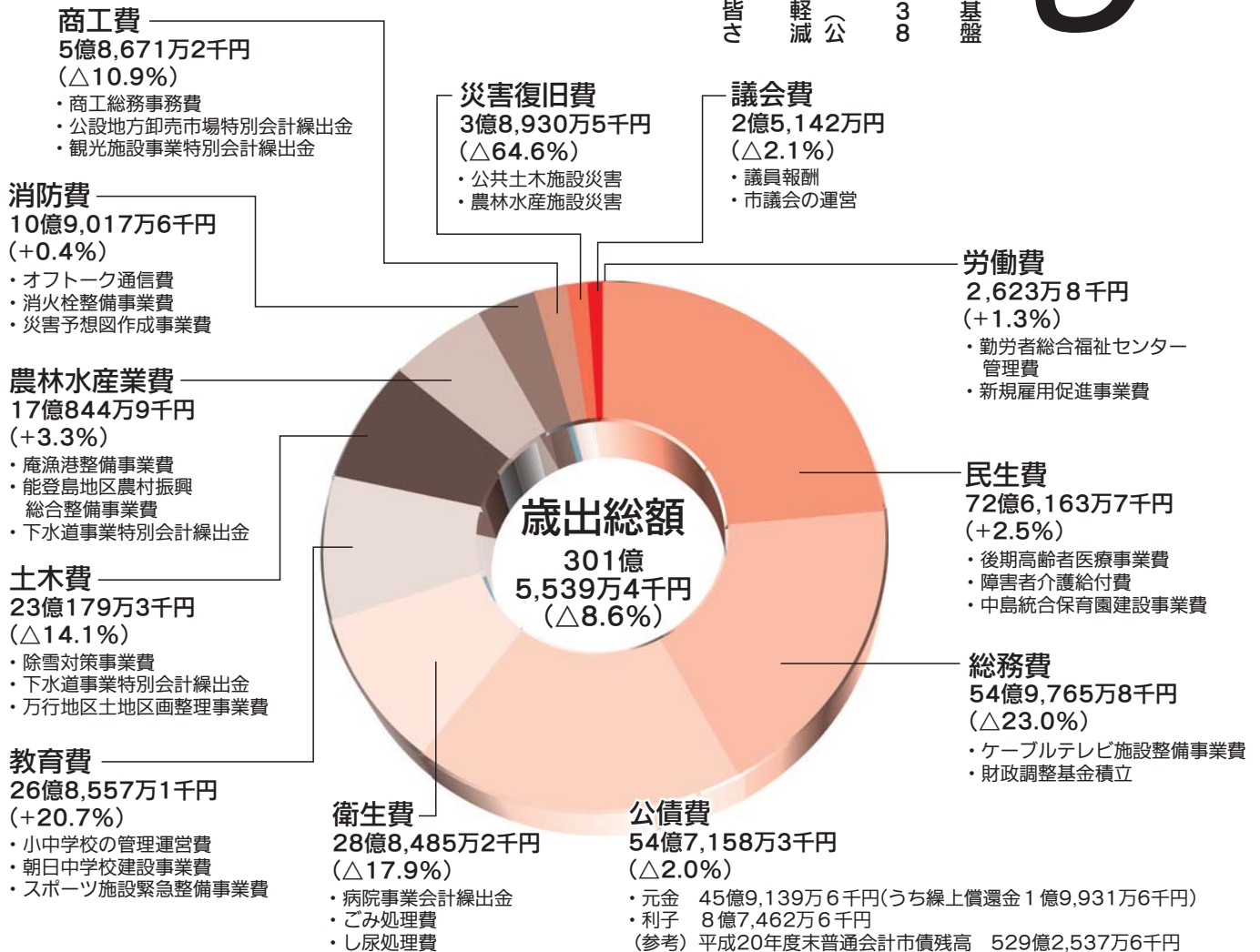
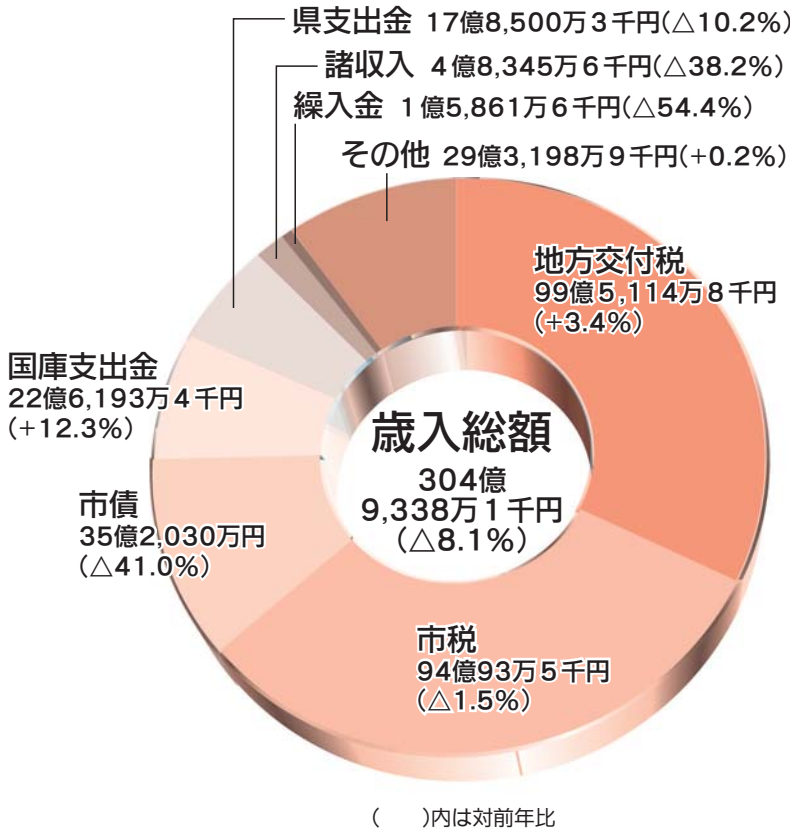
※「現代の名工」(卓越した技能者の表彰制度)は、技能者の地位と技能水準の向上を目的に昭和42年に設けられた。今回で第43回を数える。表彰対象は、金属加工、機械器具組立・大工などの職業を分類した全20部門の技能者。本年度の県内からの受賞は3人。親子2代での受賞は3組目の快挙。

平成20年度 普通会計 ※

決算のあらまし

平成20年度は『自立と連携―持続可能なふるさと創造』をテーマに、都市基盤の整備や福祉・教育など、市民との協働によるまちづくりを推進しました。平成20年度決算では、普通会計に入ってきたお金(歳入)は、304億9,338万1千円。そこから使ったお金(歳出)は301億5,539万4千円を引くと『3億3,798万7千円の黒字』でした。財政運営の健全化に向けては、借金(公債)を決められた期限内に返済する取り組み(繰上償還)を行い、将来の負担の軽減を図りました。

今後、本行財政改革を実施しながら積極的なまちづくりに取り組みますので、皆さんの理解とご協力をお願いします。



※普通会計・・・地方財政状況調査(決算統計)の作成要領により、一般会計に公共用地先行取得事業、ケーブルテレビ事業、墓地公園事業特別会計などを含めた会計。